

談話室

産経新聞 平成30年（2018年）10月4日（木）

感謝の思い込め「ただいま」

大学生 ひらひら かくしゅう 平碰覚紹 22

「おかえり」という言葉に、温かさを感じる人は、どれくらいいるだろう。

私は大学生になり実感した。地元を離れ、1人暮らしが始まったときには、自由な身になった気がした。

しばらくすると、下宿先に帰るのがいやになってきた。誰もいないからだ。この時「おかえり」の温かさや大切さに、初めて気づくことができた。

この一言で、家に帰ってきた人を、どれくらい幸せにできるのかを身をもって感じたのだ。

あいさつが形骸化されているのかもしれない。でも「おかえり」のやり取りで、心が救われる人を忘れてはいけないと思った。

「おかえりなさい」という立場になったとき、この気持ちを思い出したい。

今の私は、帰省して「おかえり」と言ってもらえる側だ。だからこそ「感謝」と「元気に帰ってきました」という思いを込めて、笑顔でこう言いたい。

「ただいま」

（奈良市）

※無断転載不可